

師走になった。航空保安大学校の研修を9月末に終了し、全国各官署へ赴任してから早や3ヶ月目を迎えた2011A期生の皆さんもそろそろ新しい環境にも慣れ、ふと我に返る頃だろうか。気候風土が違う初めての土地に赴任し、新しい住い、慣れない通勤経路、初めての職場、初対面の先輩上司、シフト勤務等々、ストレス源にはこと欠かない。OJT研修は楽ではないし、実機を管制する事で、保安大学校の時とは緊張の度合も違うだろう。厳しい現実と直面して少々幻滅を覚え、それまで夢見ていた理想の世界が色褪せたと云う人もいるかも知れない。また、個人差があって当然だが、時にはスピードについていけず、少し息切れしている方もあるだろう。

「石の上にも三年」と云う言葉があるが、環境が変わって3ヶ月目と3年目は心身の疲れが溜まり、迷いを感じがちだと云われている。もしかしたら、人生の「逢魔が時（おうまがとき）」かも知れない。夕方のうす暗い時、黄昏時は、電灯のない昔、魔物に出会う時刻と考えられていた。大きな禍（まが）、つまり大きな災禍が起こり易い時刻という意味で「大禍時（おうまがとき）」とも書く。

民間企業では新入社員の3割が入社3年以内に辞めてしまう事が問題になっている。就職氷河期が続いているので、何処でも良いと焦って就職し、入社後にこれで良かったのかと疑問を持つ、すぐに希望の職種に就かせて貰えない事を不満に思う等々の理由が多いと聞く。

警察学校では、訓練内容は昔と変わらないのに厳しい訓練についていけずに途中で辞めてしまう学生が急増していると言う。人生の急な曲がり角では脱線事故を起こさないよう、少し速度を落とす慎重さも必要だろう。何せ、先は長いのだから。

古代ギリシャの医聖ヒポクラテスは「芸術は長く人生は短い（Ars longa, vita brevis）」と云ったが、如何なる分野でもプロの道を究めるには長い年月を要する。航空管制官も、科学的な教育訓練カリキュラムや高度な訓練用シミュレータの導入等により訓練期間が昔より短縮されたとは云え、有資格者になるのは簡単ではない。辛抱強く教育訓練と実務経験を積み重ね、段階的にレベルアップしていくと云う長期的なキャリア戦略が必要なのだ。民間企業では、新入社員がマーケティングの基礎理論を勉強してきたからと花形の市場戦略の仕事をしたいと希望し、それが叶えられないと辞めてしまうケースがある。基礎理論の教科書を一冊読んだ程度では、プロ同士が凌ぎを削る競争の世界で勝負にならない事が判らないのだ。何でも簡単に短時間で手に入る時代になっても、一級のプロとなるには年月を必要とする。

最近、「1万時間の法則（10000-hour rule）」と呼ばれる成功法則が提唱されている。熱意を継続しながら、明確な意思力を持って計画的に訓練を続ければ、誰でも秀でた能力を身に着けることが出来る、と云うものだ。勿論、1万時間掛けて、と云う事だ。安易な近道はないのだから、仕事に就いて3ヶ月目だろうが、3年目だろうが、自分に合ったペース配分でマラソンのように長期的なキャリア戦略を立てて頂きたい。技量には個人差があり、短期間で上達するものの早く限界に達する人もいるし、初めの内は遅くても大器晩成で、最終的には高いレベルまで上り詰める人もいる。多少の遠回りや足踏みは問題ではない。

管制業務はチームワークで成り立つ部分が多く、関連機関の仲間達と連携し、支え合っている幅の広い仕事である。管制に関する知識や技能を習得するだけに留まらず、他官署や運航者、そして、地域社会とも関係を深める事で、常識を広げ、人間性、特に対人スキルを高める継続的な努力も続けるようお願いしたい。先は長い、「百里の道も一歩から」と云う。さて、あなたの次の一歩は右ですか、左ですか。